

第4章 市の地理的、社会的特徴

枚方市は、西に淀川が流れ、東には生駒山系の山々がある。市の中央部を国道1号が縦断し、市の西部を京阪電鉄が、東部をJR学研都市線が走っている。面積は65.08k㎡で、東西12.0km、南北8.7kmの広がりをもつ。また、北東は京都府八幡市、東は京都府京田辺市、南東部の一部は奈良県生駒市、南は交野市、南西は寝屋川市、北の一部は淀川を隔てて三島郡島本町、北西は高槻市に接している。

面積		65.08 k m ²	
地勢	位置	(東経) 135° 39	(北緯) 34° 48
	範囲	(東西) 12.0 k m	(南北) 8.7 k m
	海拔	(最高) 330.0m	(最低) 4.1m

資料:「平成17年度 枚方市統計書」

第1節 地理的特徴

1 山地(生駒山地)

生駒山地は市域の東部に位置し、生駒山より連なる中起伏山地である。市域では交野山(345.1m)付近が最も高く、標高は100~350mである。山麓には扇状地や土石流堆等の山麓堆積地形の発達が見られる。

2 河川

淀川は、その源を琵琶湖に発し、途中、木津川、桂川を集めた後、本市北頂部から西南端にかけて、市域西縁に沿って流れる。市域におけるその他の主要な河川には船橋川、穂谷川、天野川があるが、大部分は天井川となっている。これらは台地、丘陵を開析して流下するが、沿川には低地を形成している。

3 池

池は、市域に約400箇所点在していて、その多くは田畑の灌漑用に供せられている。このうち規模の大きなものとしては、山田池(大字田口)、大池(大字長尾)、新大池(招提東町3丁目)、惣喜池(津田北町3丁目)等がある。

4 地形

本市は、淀川の左岸、生駒山地の北部にのびる枚方丘陵上にあり、山間部から船橋川、穂谷川、天野川がそれぞれ南東から北西に流下して淀川に注いでいる。

地形的には、東部の標高 100m以上の生駒山地延長部、それに続く 50～100mの山麓地帯・谷口扇状地、中央部の 20～50mの沖積層丘陵・台地、20m以下の淀川低地帯をなす沖積平野の各地区に分けられる。

ア 低地（淀川低地及びその他河川の低地）

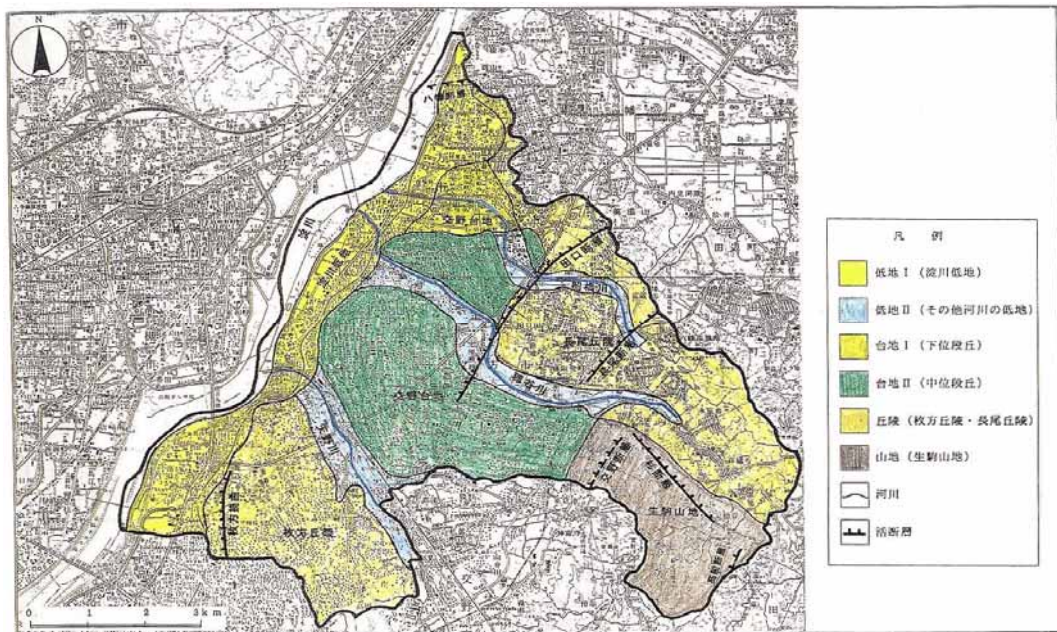
淀川低地は、淀川によって形成された沖積平野であり、山崎付近の狭窄部で標高 13m、枚方市南西部では標高 2～4 mとかなり低平である。

イ 台地（交野台地）

交野台地は市中央部に広がる標高 20～50mの台地で、全体的に南東から北西に緩傾斜した海成段丘面である。台地は中宮付近を中心とする中位段丘と、船橋付近の下位段丘に区分できる。

ウ 丘陵（枚方丘陵及び長尾丘陵）

枚方丘陵は市南東部に位置し、天野川の低地と淀川低地に挟まれた南北 5～6 km、東西 1～4 km、最高 81.8m（香里ヶ丘 8 丁目付近）、平均 50m前後の定高性を示す丘陵地である。なお、同丘陵は詳細にみれば丘陵と台地（段丘）に区分できる。丘陵地の大部分は人工改変され、原地形はほとんど残っていない。長尾丘陵は市東部から北部にかけて広がる丘陵であるが、詳細にみれば標高 50～100mの開析の進んだ台地（段丘）と、標高 100～150mの小起伏丘陵地からなる。なお、京都府との境界付近に大規模な宅地造成が行われている。



第2節 気候

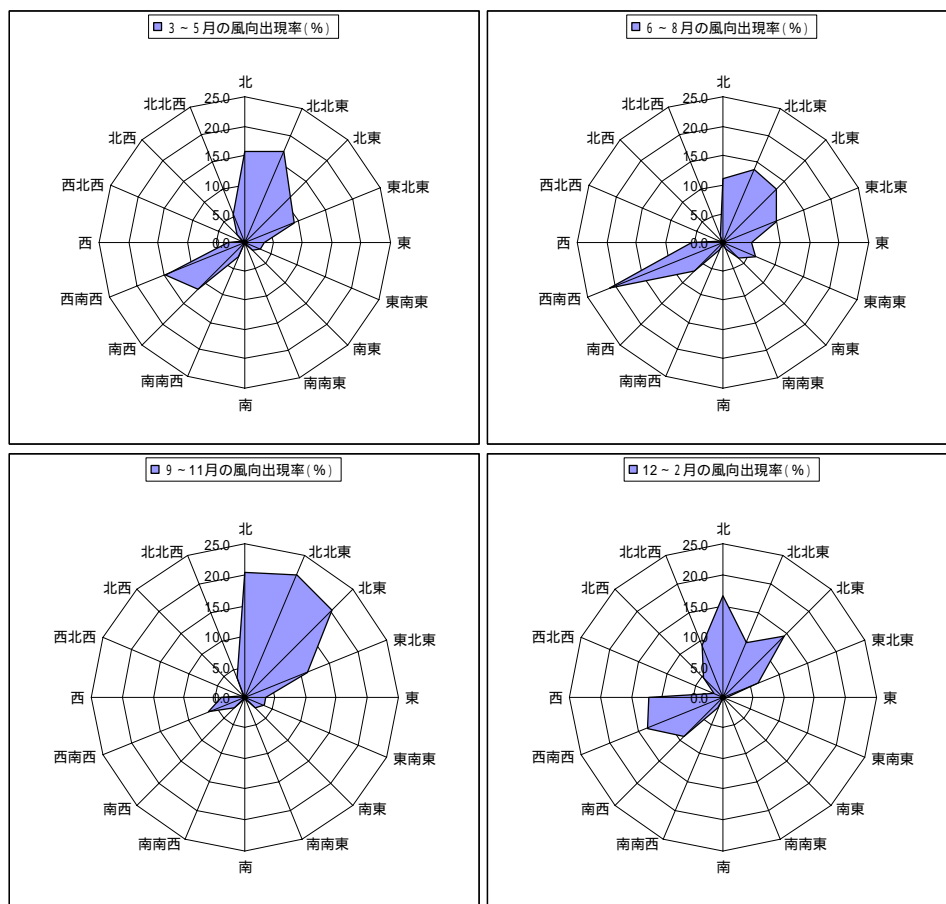
本市の気候は瀬戸内式気候に属し、年平均気温は15℃前後で、これまでの最高気温は39.6℃（1994.8.8 15時）、最低気温は-7.1℃（1981.2.27 07時）が記録されている。

年間降水量は、準平年値で1,395.8mm、最大24時間降水量(日降水量)172mm(1999.8.11)である。降水量については、6月下旬の梅雨、台風期を含む秋雨期に集中する傾向がある。

気 温					風 速			降水量		日照時間
準平年値			極 値		平均 [準平年値]	最大	風向	年 間 [準平年値]	最大24 時間(日 降水量)	年 間 [準平年値]
日最高	日最低	平均	最高	最低						
19.8	11.1	15.2	39.6	-7.1	m/s	m/s	16方位	1,395.8	172	1,696.6

資料：極値（1977.3月～2005.7月：枚方地域気象観測所）

：準平年値（1979～2000（日照時間のみ 1987～2000）：枚方地域気象観測所）



資料：一日の最大風速に対応する風向きを日風向として作成（2001～2005）：枚方地域気象観測所

第3節 人口分布

本市の人口は、404,004人で、近年になって微増の傾向となっている。人口密度は1km²あたり6,209人で、府下市町村中13番目に高い。65歳以上の高齢者が占める割合は約16%である（平成17年10月1日現在。資料「平成17年度 枚方市統計書」）。

1 夜間人口及び昼間人口

本市の夜間人口は401,182人、昼間人口は334,501人である。昼間人口指数は83.4で、これは府下市町村で9番目の低さだが、流入人口から流出人口を差し引いた増減人口は66,681人の減と、府下市町村で最も多く、いわゆる「ベッドタウン」としての特徴をよく示している（平成12年10月1日現在。資料「総務省 国勢調査報告」）。

2 災害時要援護者

(1) 高齢者、障害者等

本市の65歳以上の要介護認定者数は11,729人で、65歳以上人口総数の18.2%を占め、総人口の2.9%にあたる。障害者数については、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付者数合わせて17,200人で人口総数の4.2%、5歳以下の乳幼児数については、23,190人で人口総数の5.7%である。また、平成16年度の妊娠届出件数は3,791件で妊産婦数は人口総数の0.9%となる（平成17年10月1日現在。身体障害者数及び妊娠届出数は平成17年3月末日現在。資料「ひらかた高齢者保健福祉計画21（第3期）」、「平成17年度 枚方市統計書」、「平成16年度 枚方市事務概要」）。

(2) 外国人登録者数

本市の外国人登録人口の総数は4,451人である。国籍（出身地）別では韓国・朝鮮が最も多く、中国、ブラジル、米国の順にこれに次ぐ（平成17年12月末日現在。資料「平成17年度 枚方市統計書」）。

朝鮮とは国籍ではなく、朝鮮半島出身者であることを示す（昭和40年10月26日法務省見解）

第4節 道路の位置等

1 主な自動車専用道路

西日本高速道路株式会社が管理運営する一般有料道路「第二京阪道路」が、市の東部にある「枚方東インターチェンジ」を起点として、京都府八幡市、京都府京田辺市を通り、京都府久御山町にある「久御山南ジャンクション」まで延びていて、京滋バイパスに連絡している。

2 主な一般道

(1) 国道

ア 国道1号

京都府との府境（高野道2丁目付近）から寝屋川市との境界（木屋元町交差点）まで、市域を縦貫している。12時間交通量が5万台を越える、本市及び京阪間の大動脈。

イ 国道168号

天の川交差点を起点に、交野市との境界（村野南町付近）へと伸びていて、交野市、奈良県へと通じる。

ウ 国道170号

枚方大橋から、寝屋川市との境界（木屋北交差点）へと伸びている。

エ 国道307号

池之宮北交差点を起点に、京都府との府境（大字尊延寺付近）へと伸びている。

(2) 府道（主要地方道）

ア 主要地方道 京都守口線（府道13号）

京都府との府境（大字楠葉付近）から市域に入り、京阪本線とほぼ併走しながら市域西縁に沿って南下し、南中振3丁目付近で国道1号と合流する。

イ 主要地方道 枚方高槻線（府道17号）

大字尊延寺付近を起点に、西牧野（牧野橋北詰交差点）まで伸びている。

ウ 主要地方道 枚方交野寝屋川線（府道18号）

楠葉及び楠葉南交差点を起点として、市域のほぼ中央を南下し、村野高見台付近で一度交野市域へ抜けた後、新天野川橋交差点付近で再び市域へ入り、南下して東香里南町付近で寝屋川市へ入る。

エ 主要地方道 八尾枚方線（府道 21 号）

枚方大橋南詰交差点を起点として、京阪本線と併走しながら南下し、南中振 1 丁目付近で寝屋川市域へ入る。

オ 主要地方道 枚方山城線（府道 71 号）

氷室交差点を起点として東南方向に伸び、大字穂谷付近で京都府へ入る。

3 自動車保有台数

平成 16 年度末現在、市内では約 219,000 台の自動車が保有されていて、その内訳は、貨物用自動車が約 9,000 台、乗合用自動車が約 300 台、普通・小型乗用車が約 113,000 台、特殊用途車が約 2,000 台、軽乗用車が約 20,000 台、軽貨物車が約 10,000 台、二輪車が約 63,000 台となっている（資料「平成 17 年度 枚方市統計書」）。

第 5 節 主な公共交通手段**1 鉄道****(1) 路線**

市域を通る鉄道路線には、京阪電鉄の京阪本線と京阪交野線、それに J R 西日本の J R 学研都市線の 3 本がある。

京阪本線は、大阪市の淀屋橋駅と京都市の出町柳駅を結んでいて、本市の西縁を淀川とほぼ併走する形で南北に走っている。市内には北から順に、樟葉、牧野、御殿山、枚方市、枚方公園、光善寺の 6 駅があり、樟葉駅～光善寺駅の営業距離は 8.6 km である。

また、京阪交野線は枚方市駅と交野市の私市駅を結ぶ支線で、交野市へ向かって南東方向に伸びている。市内には西から順に、枚方市、宮之阪、星ヶ丘、村野の 4 駅があり、枚方市駅～村野駅の営業距離は 2.5 km である。

J R 学研都市線は京都府相楽郡木津町の木津駅と大阪市の京橋駅を結んでいて、市内東部を府道交野久御山線とほぼ併走する形で南北に走っている。市内には北から順に、長尾、藤阪、津田の 3 駅があり、長尾駅～津田駅の営業距離は 3.2 km である。

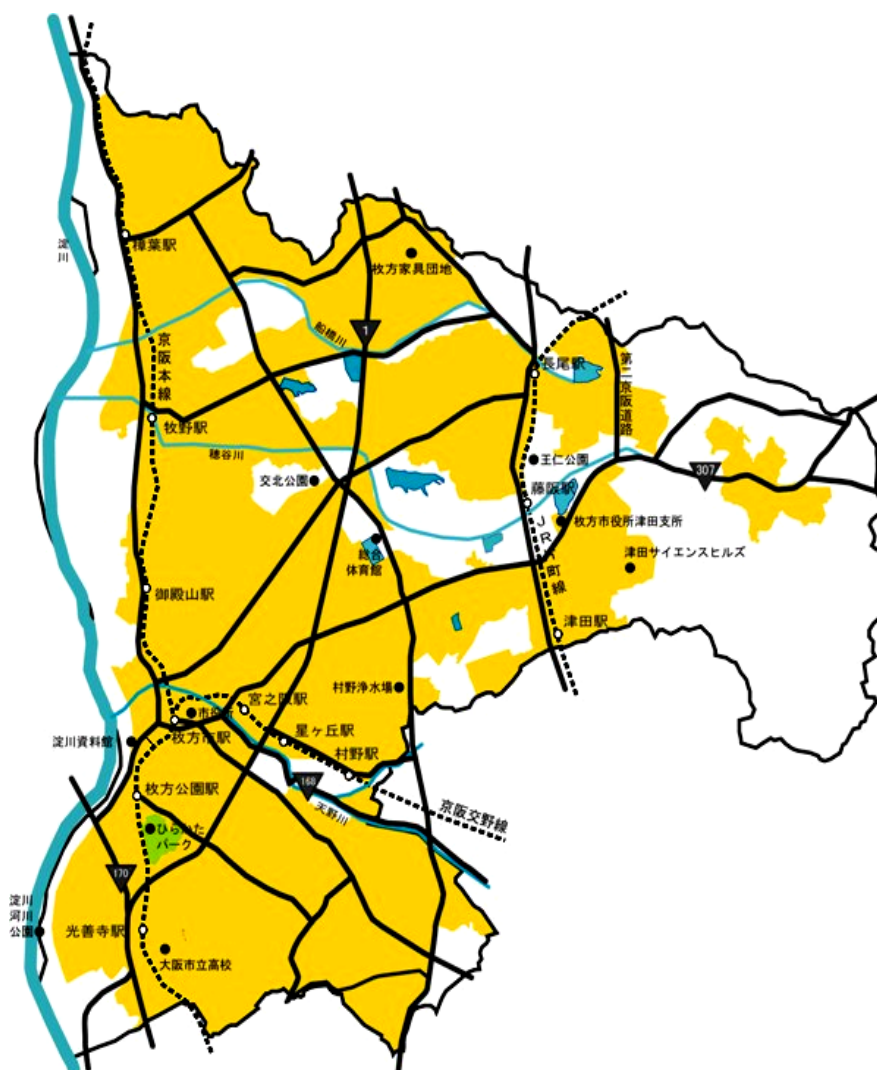
(2) 駅

市内の鉄道駅の中で最も乗降客数が多いのは枚方市駅で、約 87,000 人（1日あたりの延べ人数。以下同じ）が利用しており、樟葉駅（約 61,000 人） 牧野駅（約 27,000 人）、光善寺駅（約 24,000 人）の順にこれに次ぐ（平成 14 年 12 月 10 日 京阪電気鉄道株式会社調べ。資料「平成 17 年度 枚方市統計資料」）。

2 バス

本市では、京阪電鉄の系列バス事業者である京阪バスが営業運行している。市内の鉄道駅を主なターミナルとして、市内のほぼ全域をカバーする路線網を有している。松井山手、新田辺、八幡（以上京都府内）、寝屋川、茨木、高槻（以上大阪府内）等、市外と結ぶ路線もある。

《図：枚方市内の主要道路及び鉄道路線》



第6節 主な施設等

1 大規模集客施設

本市が擁する大規模集客施設としては、「くずはモール（平均来場者数 48,000 人/日。以下同じ）」と「ピオルネ（15,000 人/日）」の二つの大規模商業施設、府下で2番目に多い入場者数を誇る遊園地「ひらかたパーク（4,600 人/日）」等が挙げられる。

2 生活関連等施設

本市には、水道に関する施設として、本市水道局が所管する中宮浄水場（中宮北町）と、大阪府水道部が所管する村野浄水場（村野高見台）がある。中宮浄水場は、本市水道水の8割を浄水処理しており、その給水能力は一日当たり 130,000 m³である。村野浄水場は、本市を含む府内 41 市町村が供給する水道水の一部を浄水処理しており、その給水能力は一日当たり 1,797,000 m³である。

また、本市には「紳士服団地（長尾谷町付近）」、「枚方企業団地（招提田近付近）」、「家具団地（長尾家具町付近）」、「鉄工塗装団地（招提大谷付近）」、「東部企業団地（春日野付近）」及び「枚方工業団地（春日西町付近）」の6つの企業団地があり、これらの地域では危険物質等を取り扱う事業所の集中がみられる。

なお、本市に石油コンビナートや原子力施設、自衛隊施設は存在しない。